

## 令和元年度 荒川下流域を対象としたタイムライン専門部会（第1回）

### 議事要旨

日時：令和元年12月19日（木）13：30～16：30

場所：台東区民会館 9階 ホール

#### 1. 開会挨拶

○荒川下流河川事務所所長

本日は荒川下流を対象としたタイムラインの専門部会令和元年度第一回として、多くの自治体の皆様、関係機関の皆様にお集まりいただき、改めて御礼申し上げます。

10月の台風19号により、荒川流域の72時間総雨量はカスリーン台風時の437ミリを超えて戦後最大の雨を記録した。本日は台風19号を振り返り、来年の出水期に向けた荒川下流タイムラインの改善点について、関係機関の方々と議論・共有する場にしていただきたい。また、鉄道の計画運休が実施されたことに伴い、日本旅客鉄道株式会社様、東武鉄道株式会社様、東京地下鉄株式会社様（以下敬称略）に、台風19号等における計画運休の状況等についてこの場で情報共有をお願いしている。それらも踏まえた改善点等、忌憚のない意見をいただきたい。

#### 2. 台風第19号のふりかえりと検証（After Action Review/Improvement Plan）

(1) 台風第19号による荒川の出水状況

東京管区气象台、事務局より資料の説明が行われた。

##### ■関係資料

◎資料1 台風第19号のふりかえりと検証（After Action Review/Improvement Plan）

◎別添1-1 台風第19号による大雨（東京管区气象台まとめ）

議事1(1)について、意見はなかった。

(2) 荒川下流タイムラインの運用結果

事務局より資料の説明が行われた。

##### ■関係資料

◎資料1 台風第19号のふりかえりと検証（After Action Review/Improvement Plan）

◎別添1-2 台風第19号による荒川の出水状況

議事1(2)について、意見はなかった。

### (3) 鉄道各社の計画運休に関する対応状況

東日本旅客鉄道(株)、東京地下鉄(株)、東武鉄道(株)より計画運休に関する各社の対応状況の説明が資料に基づき行われた。

#### ■関係資料

- ◎台風15号、台風19号対策会議（東日本旅客鉄道(株)）
- ◎2019年10月台風19号における計画運休等の対応について（東京地下鉄(株)）
- ◎計画運休の実施について（台風15号、台風19号）（東武鉄道(株)）

#### ○東日本旅客鉄道(株)

##### <台風19号の対応について>

- ・10月10日：8時に第1回対策本部を設置した。10時半に計画運休の可能性があることを発表した。
- ・10月11日：10時45分に計画運休実施の決定を本社プレス発表した。

##### <計画運休を見据えた訓練の実施>

中心気圧が950hPa以下の台風である場合や台風の進路から首都圏全域に影響が及ぶことが想定できる場合に計画運休を実施するという基準を作ってきた。2019年1月と7月に2回の計画運休についての訓練を行っており、訓練のふりかえりから、どのようなタイミングで計画運休を発表するかの議論をした。その結果、概ね24時間から48時間前に計画運休の可能性を発表し、約12時間前に計画運休の詳細を発表、その後、運転再開の見込みを発表し、設備点検をすべて終えて運転再開することを決めてきた。

##### <今後の課題>

現在、社内では長野新幹線車両センターの浸水という大きな被害があったため、車両疎開についての議論を行っている。

#### ○東京地下鉄(株)

##### <台風19号の対応について>

- ・10月9日：鉄道の運行に係る部署が会議に出席して台風19号接近に伴う体制について、各機関からの報告、今後の予定等を会議の中で決めていく方針をとっていた。
- ・10月10日：鉄道本部の役員および各部の部長、課長を参集し、第1回台風対応会議を開催した。その中で、気象庁や気象会社からの関東地方に台風が近づき、通常より大幅な状況が見られるという情報に基づいて計画運休を行うことを決定した。
- ・10月11日：第2回台風対応会議を開催して、12日土曜日13時から順次運転見合わせ、翌日の午前中まで運転を見合わせることを決定し、発表した。
- ・10月12日：警備体制の強化を行った。
- ・10月13日：5時40分に安全確認が終了し、6時26分に列車の配置が完了、7時に

運転再開をした。

<利用者への情報提供>

運行情報は計画運休開始の 49 時間前および 26 時間前、運行開始の 2 時間前にそれぞれホームページ、各駅ディスプレイ等により情報提供をした。

<今後の課題>

東京メトロでは荒川下流タイムラインおよび東京メトロ版タイムラインを活用し、時間軸と水位情報を気かけながら対応しているが、色々な疑問点等が見えてきたので、今後課題に対応していければと思います。

○東武鉄道(株)

<台風 19 号の対応について>

- ・10 月 8 日：ウェザーニュースの情報から計画運休に向けた情報収集を開始。
- ・10 月 9 日：気象庁の臨時記者会見での大型で非常に強い台風がやってくるという情報を受け、計画運休の検討を正式に開始。
- ・10 月 10 日：気象庁の 12 日 13 時ころから暴風域に入るという発表を受け、12 日 11 時ごろから本数を減らし、13 時から運行を終了するという対応を決定した。

<利用者への情報提供>

計画運休の判断が出た時点で迅速に情報提供を行った。再開見込みの時間は大体の時間ではなく、施設点検、安全確認終了後に再開というアナウンスにしたことで、利用客が情報をしっかり把握してから駅に来てもらうことを徹底でき、台風 15 号の際と比べて駅の混乱が発生しなかった。

<今後の課題>

台風 19 号では計画運休のタイミングが休日であったが、台風の直撃が平日、台風が抜けるタイミングが平日だった場合、通勤等の事情で駅に来てしまう方が出てくる。そのような方への告知、対応が今後の課題の一つと考えている。

議事 1 (3) について、以下の意見が挙げられた。

北区) 鉄道運休の情報提供が自治体に伝達されるまで仕組みを教えていただきたい。また、プレス発表の事前に自治体に情報を伝達する仕組みが出来るかどうかの可能性を教えていただきたい。

⇒東京都総務局) 各区市町村への鉄道運休の情報提供については、東京都がファックス等で鉄道会社から情報を頂戴して、それを各区市町村に流すという仕組みで台風 19 号の時に対応している。早期に情報を得られないかということに関しては、我々も鉄道各社にお願いしたいところであり、ご検討いただければと思っている。

東京都総務局) 東京地下鉄の説明で避難指示、避難勧告等の発令時の対応については社内規定において定められていたとあったが、ここを詳しく教えていただけないか。  
⇒東京地下鉄) 震災対策規則で社内規定を設けており、避難勧告の発令に対しては、止水処置、利用客の避難、列車の運休に関して定めている。今回色々な課題が見えてきたので、今後規定をどのような取り扱いとするか検討していく段階である。

松尾一郎アドバイザー) 台風 15 号、台風 19 号対応についてきちんと説明をしていただいたことに感謝を申し上げる。現行のタイムラインが皆さんにとって本当に使えるものになっているのかが疑問である。首都圏を襲った台風 15 号、台風 19 号という大きな台風がどのような課題に結び付いたのかが議論の論点である。鉄道の計画運休、運転見合わせについては、市区でこれからの避難を考えるうえでの一つのベースとなるため今後も議論を深めたいと思っている。今回、鉄道事業者各社は風速を基準として運休を決めた部分があったと思うが、水位や氾濫の可能性等の河川に関する情報に基づき対応するためには鉄道事業者と河川事務所がさらに密に情報共有をしていくことが重要であると考えます。

ところで計画運休は基本的に河川水位ではなく風速に基づいて行っているのですよね？

⇒東京地下鉄) 荒川下流タイムラインを参考にして、東京メトロ版社内タイムラインもあり、その中では風速だけでなく水位情報として熊谷と治水橋と岩淵水門の水位を逐次河川事務所から提供・共有してもらい、それぞれの地区の情報を考えて運行計画を行うようになっている。

#### ○荒川下流河川事務所総括地域防災調整官

発表してくださった 3 社以外でタイムライン上の計画運休についての記載で修正すべきところがあれば、この後のワークショップでご発言をお願いします。

なお、計画運休やその可能性に関する情報は、東京都内の区以外にも埼玉県の手やほかの機関の方にも鉄道事業者各社から共有してもらえないか各社で検討を願いたい。原則的にタイムラインのメンバーのみの情報を想定している。この場で回答はできないと思われるため、また後日相談させていただく。

#### (4) ふりかえりとタイムライン検証(ワークショップ)

事務局より資料の説明およびワークショップが実施された。

##### ■関係資料

#### ◎資料1 台風第19号のふりかえりと検証 (After Action Review/Improvement Plan)

事前のアンケートに基づき、足立区、首都圏新都市鉄道、東京電力、北区から情報共有ツールの活用状況について意見を伺った。

##### ○足立区

足立区は入力が遅れ気味で、大抵他の区の入力の方が早かったので参考にさせていただいた。何かを判断するときには他の区の状況が大変参考になった。災害対策本部をどのくらいの区が立ち上げているのか等の最初の入力を参考にした。

##### ○首都圏新都市鉄道

荒川下流河川事務所の動きを特に参考にした。各区の動き等も参考にした。他の区の動きを全般的に確認していた。特に避難勧告、避難指示等が出ているかどうか注目していた。

##### ○東京電力パワーグリッド

首都圏地域に事業所があり、ある程度のレベルで機能移転をしなくてはならないため、避難指示関係の情報を入手する目的で使用していた。

##### ○北区

人員体制から甘く見積もっていて、タイムラインを活用するための体制がとれていなかった。他の機関がどのようなタイミングで避難情報を出しているか等の情報は大変参考になる。次回は共有ツールも活用出来るようにしていきたい。

### 3. 今後の荒川下流タイムラインについて

今後のタイムライン専門部会、減災対策協議会の実施スケジュールについて、事務局より資料の説明が行われた。

##### ■関係資料

#### ◎資料2 今後の荒川下流タイムラインについて

議事2について、意見はなかった。

### 4. 講評

#### ○松尾アドバイザー

ワークショップでは人手不足であったことやあまりにも多くの対応事項が発生したために、やるべきことができなかったという意見が見られた。今回挙げられた課題は、想定以上の事態がタイムラインの運用に支障をきたしたという話ではなく、そもそも災害対応そのものが十分にできなかったということだと思われる。これだけ対応をし

たのはほとんどの市区が初めてであり、混乱して終わってしまったということが多かったことと思われる。そのうえで大事なことは、各機関内の部局で何が起こったのかふりかえりを徹底的かつ真剣に行うことである。今一度“タイムライン”について真剣に考えて自分たちのものにすることが共通版タイムラインの検討を行うということだと思ふ。

## 5. 閉会挨拶

○荒川下流河川事務所防災企画室長

以上を持ちまして「令和元年度 荒川下流域を対象としたタイムライン専門部会（第1回）」を終了します。ありがとうございました。

以上